

大和政権と地方豪族の関係

近畿大学提供
作成日 2016年2月8日
更新日



研究者氏名 みなみ たけし 南 武志	所属機関 近畿大学理工学部	関連キーワード(複数可) 弥生時代、古墳時代、墳墓、朱、硫黄同位体分析
主な研究テーマ ・同位体分析を用いた墳墓から出土した朱の産地推定		主な採択課題 ・基盤研究(A)平成26～29年度(配分総額:37,830千円) 課題名「同位体分析法から見た墳墓出土朱の産地変遷—大和政権による朱の政治的利用—」 ・基盤研究(C)平成22～24年度(配分総額:4,290千円) 課題名「ヨーロッパにおけるローマ帝国時代の遺跡朱の産地同定」

① 科研費による研究成果

- ・考古資料の原産地を調べる方法に最新の同位体分析手法を持ち込み、客観的なデータから原産地の推定を試みた。
- ・朱(硫化水銀)は弥生時代中期から古墳時代の墳墓内部に塗布されたり散布されたりしており、権力の誇示に用いられたと考えている。
- ・時代背景から古代大和政権誕生と、墳墓での朱の利用に関係があると考え、朱の産地推定を同位体分析で試みた。
- ・弥生時代後期の出雲を含む日本海沿岸各地の王墓と思われる墳墓において中国産朱が用いられていたことが判明した。
- ・北部九州では、古墳時代に入っても中国産朱を用いた墳墓がある一方、弥生時代終末期に国内産朱が用いられていた墳墓が見られた。
- ・中国産と思われる朱は、徳島県の墳墓でも観察されたが、奈良県内の墳墓で現在までのところ見つからない。
- ・さらに、弥生時代終末期の各地の墳墓で、中国産と日本産を混合したと思われる同位体比を示す朱が存在している。

写真は古墳時代前期に築造された奈良県桜井茶臼山古墳の石室内部である。石室内部は天井石を含め、すべての石に朱がまぶされ、その総量は200kgを超えたと考えられている。大和産朱が使われたと同位体分析結果から考察した。



② 当初予想していなかった意外な展開

- ・古代墳墓は全国各地に存在しており、そこで発見された墳墓の朱の産地が推定されると、考古学関係者以外にマスコミなどの関心も高く、郷土の出来事として一般の人たちも強い興味を持っていることがわかった。例えば今年度は、古墳時代前期前半に築造されたと考えられている岡山市の前方後円墳である平井西山(操山109号)古墳から出土した朱の産地について同位体分析を行い、三重県産の可能性を推察した。これがNHK岡山放送でニュースとして取り上げられ、いくつか一般の方から質問が寄せられた。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- ・各地の埋蔵文化財センターや教育委員会から産地推定の依頼が届き、古の郷土に思いをはせる出来事として一般の人たちの高い関心事であると思われる。